

平成 24 年 2 月 20 日

2 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産は、間伐主体に順調な生産が続く。入・集荷とも平年を上回る状況。順調な出材が続く一方、製品は先安感から荷動きが鈍化、スギ・ヒノキ柱材を中心に引き合い弱まる。中目材は、スギは順調な動きを維持、ヒノキは勢いを失う。年明け後、市毎に値を下げていた価格はそろそろ底が見えてきた模様。スギ・ヒノキとも柱材は弱含みで、これ以上下がると荷止めの動きも懸念。中目材はスギ弱保合、ヒノキ弱含みで推移。厳冬により、丸太が凍り製材工場の稼動に影響が出ており、落札材の引取が悪い。群馬は原木の入出荷は特に問題なく、原木在庫多め、操業度低く原木消費はやや少なめ。販売状況悪く、製品在庫やや多め。県内住宅着工悪く厳しい状況が継続。原木価格も続落、特にヒノキは量多く激しく下落。県の住宅補助事業も前年割れと回復の兆し見られない。

2. 米材

12 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 4.1%減と 2 ヶ月ぶりに減少し、年率 65 万 7,000 戸となった。米国丸太は 1 月も中国向け需要が低調なことから伐採量を縮減。価格は保合。カナダ丸太も同様に伐採量を減らし、セカンドは保合、オールドは強保合。12 月の産地港頭在庫は約 8,000 万スクリブナー(約 36 万 m^3)。ウェアハウザー社の 2 月積み米マツ IS ソートは前月価格据え置き。米材丸太の入・出荷、在庫は横ばい。大型港湾製材工場の 1 月の荷動きは、前月より低調だった模様。内陸部製材工場も依然低調で当用買いが続く。製材品の 1 月入・出荷量に大きな変化なし。TLT(東京木材埠頭)の 1 月入荷量は前月比 12.4%減、出荷量は同 9.4%減で、在庫はほぼ横ばい状態。産地情勢は、中国の丸太需要が低迷する中、冬場で伐採量減のため需給バランスは保たれている。カナダ製材各社は中国及び米国向け製材需要が低迷していることで一部生産調整に入っている。産地製品価格は全般に変化少ない。

3. 南洋材

サバは雨季で悪天候、出材は旧正月から小正月まで休業状態、順調になるまで時間が掛かる。丸太価格は合板用は横ばい、製材用丸太、良材は高値に張り付いていると思われる。製材品は旧正月明けも一等材料は引き続き強含み、二等材料は頭打ちかやや弱含み。サラワクは、悪天候が続き出材は落ちている。旧正月明けで本格的商いとなっていない。丸太価格は、旧正月もあって中国からの引き合い少ないが、インドが例年ほどでないがメランティ lowgrade を買い始め、それらは底値と思われる。日本向け合板価格が低迷しているため弱含み。丸太の入荷は減少、出荷は横ばいで在庫は減少。製材品の入荷はやや減少。原木の販売は、合板用・製材用とも変わらず。製材品の販売は、平割二等材料の動き鈍いが一等材料、棒類は良い。

4. 北洋材

ロシア極東の中国向けは貨物輸送、本船輸送とも幾分動きが出て、特にカラマツは内装用の需要が底堅く、価格も上向きだが、日本向けは引き合い・オフアとも少なく、2011年の合板向けカラマツ入荷は前年の約半分の10万 m^3 まで落ち込んだ。シベリア地方は1月後半に寒波が到来、伐採に大きな支障をきたしている。中国満州里方面からの引き合いも例年より弱く、価格は緩やかな弱含みながら、今後の状況により反転する可能性。現地のカラマツ丸太価格は180~185 $\$/\text{m}^3$ で横ばい。富山港・富山新港の1月丸太入荷は、8,879 m^3 (アカマツ3,194 m^3 、カラマツ5,344 m^3 、エゾマツ341 m^3)と先月比104%増。一方、製品は6,673 m^3 で先月比39%増。港入荷量は増加したが製品の売れ行き悪い。原木・原板とも荷動き悪いため、出荷は低調で在庫は1~2ヶ月。価格はエゾマツ、カラマツ丸太は横ばい、アカマツ丸太は弱含み。製材品は横ばい。国内製材工場は、受注状況低調で、丸太は採算割れのため原板の再割で対応。

5. 合板

合板用国産材、南洋材、米材丸太とも価格は全般に横ばい。南洋材合板メーカーは製品荷動きの低迷で減産を強いられ、原木在庫は潤沢な様子。1月の国内の合板生産量は20.9万 m^3 で、うち針葉樹合板は18.8万 m^3 で季節要因とメーカーの生産調整で前月比4%減少。出荷量は18万 m^3 で4ヶ月連続生産を下回り、在庫は15.1万 m^3 と月を追う毎に増加。販売価格は、東日本のメーカーが価格を調整したことで市場では下落への懸念が更に強まり、川上では下値を探る動き激化。増加傾向のメーカー在庫は不安材料なため市場では需要に見合った生産調整が期待され、対応が注視される。国産南洋材合板は荷動き、引き合いとも低迷が続き、針葉樹合板は東日本のメーカーが価格調整したことで、西日本との価格差が縮まり市場では様子見の状況の中、手当は当用買いのみで買い控え顕

著。輸入合板は12mm厚品を中心にじり安の展開続き、市場では先安ムード強く手当は消極的。産地価格は混沌としており、今後の動向が注目される。輸入合板の12月の入荷量は大方の予想を上回り、29.2万m³となった。主要3カ国ではマレーシア3.6%、インドネシア16.9%、中国34.9%といずれも前年同期比で増加。年間総入荷量は366.6万m³と前年比17.1%増。ラワン構造用合板特類3×6の12mm、15mmが品薄。針葉樹、輸入合板とも先安の見方高まり、慎重な手当が続くことが予想され、不需要期のため荷動きの好転は難しいことから軟調な展開が続く見通し。

6. 構造用集成材

先日発生したハリケーンによる市況へのダメージはなく、暖冬が続く原木出荷ペースが鈍り、春の入港に影響が出そう。ラミナ価格は現地サプライヤーが赤字の結果を受け、前回のQTRから円高分でも取り戻そうと第1四半期はEURベース値上げの動きとなった。EUR価格多少の値上げだが円高の影響で円ベースでは値下げ。現地暖冬の影響もあり、原料入荷が減り船積み遅れが予測される。国産集成材の受注はやや落ち込み、不需要期に加え日本海側の豪雪で荷動き悪い。販売先行きは3月上旬まで停滞、4月以降好転の兆し。生産調整により在庫は横ばい。依然首都圏から東北にかけ職人不足が深刻。

7. 市売問屋

国産構造材は、スギ、ヒノキとも期待に反し、材の動き悪い。寒さも緩み、これからの需要に期待。外材も同様。造作材は、国産材ではスギ建具用の動きまずまず、スギ・ヒノキとも建築用造作材の動き悪い。外材は、スプルース、ピーラー、米ヒバの良材が極端に入荷薄く、需要に応えられない状況。年明け荷動きの活発化が期待されたが、買い方の手持ち仕事量伸びず在庫意欲が乏しい。今後、住宅諸施策の効果も出て、仕事量が増加することに期待。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割、ヒノキKD柱、土台とも保合。外材は、米ツガKD平割、正角KD弱保合。ロシアアカマツタルキ、WW弱保合。造作材スプルース、ピーラー良材少なく強保合。WW、RW集成材は梁、柱とも弱保合。合板は、針葉樹、ラワンともに弱保合。床板、フローアは変わらず。プレカット工場は、相変わらず町場の仕事は少なく苦戦。見積あるが価格厳しく受注に至らず。リフォーム中心に仕事が出てきているものの新築住宅は厳しい。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)